

こんなん しています。

わだいとまわり

— 307 —

千島列島

「千島列島で3日ほど遊んできたよ」。共同研究者が言いました。私たちは全国に分布する神社研究をしています。

遊んできた、とは「調査していたことごとく」。千島列島には自由に渡航できませんから文献調査です。千島列島は、北海道東部の根室半島や知床半島からロシア連邦のカムチャッカ半島まで連なる大小20以上の島々。北方4島と呼ばれる国後(くなくしり)島、択捉(えとろふ)島、歯舞(はほまい)群島、色丹(しこたん)島は北海

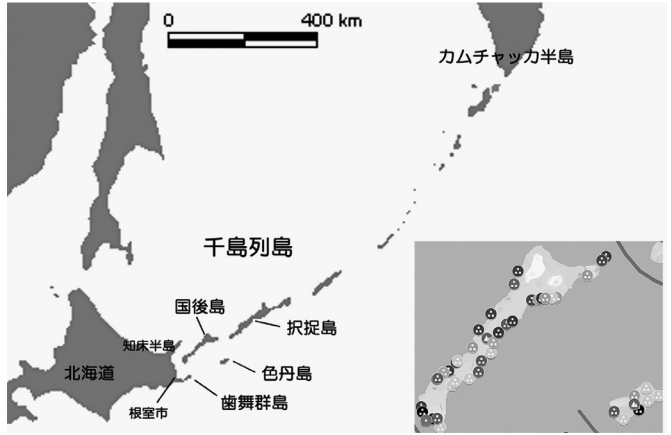
道本島に最も近く、歯舞群島の貝殻島は根室半島の納沙布(のさぶ)岬から3・7キロの近距離です。

古くからアイヌの人々が暮らしていた千島の島々に江戸後期から幕府は漁場の開拓を進め、明治にかけて日本とロシア間で領有国境が変遷しますが、第二次世界大戦の敗戦で千島列島から日本人はすべて強制退去されました。終戦時、北方4島には約1万7千人の日本人が住んでいました。

神社と暮らし

神社研究の魅力のひとつに、神社の立地や創建

北方の島々



千島列島 右下図は国後島と色丹島の神社分布。線は当時の行政界。国後島では神社、弁財天を33社マッピングした。

を通して見える当時の人々の暮らしがありま。これら北方の島々には領土問題に関わる言説でしか馴染みがありません。しかし馴染みがあります。千島の色丹神社の島

は生業とも関わる新天地で新住民たちのアイデンティティの証だったと考えられます。今回、共同研究者の文献調査で千島列島における神社64社と海の神様でもある弁財天15社の位置を確認しました。

1980年代〜90年代、根室高校地理研究部

が元島民に聞き取り調査をして描いた北方4島の地図があります。歯舞群島の水晶島は納沙布岬から約7キロ、面積20平方メートルの島ですが、地図には「終戦時の人口1075人、177世帯、馬325頭」居住者の大半は漁業で毎年春になれば富山、新潟方面から多くの出稼ぎ人夫がこの島に渡ってきた。昆布、カニ、サケ、マス、エビも豊富で本州に送り缶詰加工もした」と概要を記録。駐在所、学校、郵便局、神社、寺院の位置が示され、家屋と世帯主の氏名が島を取り囲むように沿岸部に建ち並ぶ当時のままに再現されています。集落には缶詰工場があり海では好錨地として錨マーカーが示されるなど島の詳細が図示され、手書きながら航空写真地図を見ているような再現度です。また「頼りになる青

年団「情事からんだ殺人事件」、羽毛用の「夜のウミウ取り」などいくつかのエピソードもイラスト入りで書かれ、当時の村の空気感も感じられます。他の島々も同様に活写している貴重な暮らしの記録です。

元住民提供の写真には神社例祭の賑い、晴れ着の稚児渡りや小学校の運動会、ラジオ体操の子どもたちなど、本州の、たとえば和歌山県の私たちが変わらない原風景がここ最北の島々にもありました。

湯崎真梨子(ゆざき まりこ)

和歌山大学食農総合研究教育センター客員教授

元和歌山大学教授、博士(学術)。専門は農村社会学、地域再生学。自らの研究に加え、地域と協働するプロジェクト研究をマネジメントしている。

プロ
フィル

